

□アラスサッカーリスペクトミーティング

「サッカー選手のありかたとは・・・」

1 自分のサッカーへの誠実さ（自由と責任）

自分で判断して自由に行動することが出来るサッカー。とても魅力的です。

だから自分のサッカーのコトをまず考えるのはあたりまえで大切なこと

だけど・・・

自分のサッカーだけ良くなればいいの？

いや、それは違います。自分のサッカーに関わっているすべてのモノへのリスペクト精神を考えてみよう！

2 他人・モノへのサッカーリスペクト（敬意をもって尊重する）

自分のサッカーを表現するためには仲間の存在があってこそ。なぜなら、チームメイトとの連携から生まれるスーパープレー・ファインゴール。・・・失敗をカバーしてくれる仲間の存在。これらはサッカー選手ならば誰でもサッカーのとりこになってしまう所以でしょう。

・・・でもそれだけかな？

① **相手チーム** 自分のプレーが光るとき。その場面には必ず全力で止めに来る相手があります。

相手がいなければスーパープレーもファインゴールも生まれはしません。

② **審判** ゲームをコントロールする審判がいなかったらみんな勝手気ままにルールを破ってしまうでしょう。

③ **スタッフ（監督、コーチ）** はキミ達のサッカーを変えるきっかけを与えてくれる存在です。

良いスタッフは、チームの勝利のためにひとりひとりのサッカーを大切にしています。

④ **保護者の方々・家族** キミ達のサッカーの良き理解者であり応援者であることは感じていると思います。

まだ大人のチカラでサッカーをさせてもらっているキミ達は、できるだけ自分の足で歩いていく「自立（自分で行動して自分で責任をとる）」していくことで感謝の気持ちを行動に変えることがリスペクトのヒントです。

- ⑤ **サッカーグッズ** あたらしいスパイクがでたら欲しいですね。でもまだ今のスパイクは磨けば使えるのでは。道具の少ないサッカー。道具ひとつにも大切にするといったリスペクトが存在します。アラスのビブスは開校時10年前のモノをキリンマーク再印刷、ほころびは手縫いしてもらっています。高校3年間で110ゴールを記録したスパイクたち。先が切れるまで使用し学校の教室のすみっこで中休みに毎日磨いていました。今もレシューは直しながら使っています。
- ⑥ **サッカー施設** 前回アラスのピッチの雪をかいてくれたみんなよくやってくれました。体力的にきつかったと思いますがその後のゲームでもよくファイトできていましたね。サッカーができる施設があるのもよく考えてみると当たり前のことではありませんね。大切に思う、大切に使う、それがサッカーリスペクトの考え方（精神）です。

3 良い準備のために常に上を観てサッカーをしよう。（謙虚）

日々のトレーニング、大会予選一回戦、上位トーナメント決勝・・いつも同じ準備で臨むコトをコーチは徹底しています。その意味は・・・

いつも同じ「よい準備」と言葉でいうのは簡単ですが、もうできていると満足した時点で成長は止まってしまいます。継続はチカラなり。停滞は退歩なり。

そんな時はいつもコーチが話しているとおり、上を観てください。同じ年代でも自分より素晴らしいサッカー選手がいませんか。日本の全国レベルだけでなく、世界を観てサッカーをして欲しいと感じます。

自分のサッカーが変わっていない、伸びていないと感じたときは上を観てよい準備をしよう！

サマリー（まとめ）

- ・4・5年生は上級生としてあたらしい選手を迎える心構え、そしてセレクションへの良い準備をしましょう。
- ・6年生は最後までやりきり、アラスでの活動を「自信」につなげ育成年代で最も重要とされるU-13への良い準備をしてください。U-12でできなければU-13でもできません。

保護者の皆様、残り2か月となりましたがアラスとしても良い準備を試みようと努力してまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。